

アルティ・アーティスト・プロジェクト プレ公演

音×彫刻×身体 @ALTI

京都市立芸術大学

京都府立府民ホール“アルティ”

共同制作

作曲
製作
振付
出演

岡田加津子、伊藤慶佑
京都市立芸術大学チーム
河邊こずえ、山口陽子
アルティ・ダンスカンパニー、京都市立芸術大学
“punor og punos”
“sound go round”



3 2018

2 [金]

19:00 開演

18:30 開場

会場：京都府立府民ホール“アルティ”

入場料：2000円（アルティメイト 1500円 大学生以下 800円）

※1階席は通常の座席ではなく、パイプ椅子席または栈敷席となります

主催：京都府、創く(公財)京都文化財団・(株)コングレ共同事業体
【京都府舞台芸術振興 次世代体験推進事業】、京都市立芸術大学

バシエの音響彫刻登場。さらに新・音響彫刻が初お目見え!

美術×音楽、京都市立芸術大学初の学部を越えた合同プロジェクトが
アルティ・ダンスカンパニーと融合

バシエの音響彫刻と、新しい音響彫刻

音響彫刻とは、フランソワ・バシエ（1920～2014）とベルナール・バシエ（1918～2015）兄弟が製作した音の出る彫刻作品である。1960年代より、おもに金属を素材に製作が行なわれた。1970年、大阪万博の際、鉄鋼館のディレクターを務めた作曲家の故 武満徹の要請でフランソワ・バシエが来日し、17基の音響彫刻が製作された。その後、倉庫で保管されていた作品群のうち「桂フォーン」と「渡辺フォーン」が、バシエのアシスタントを務めたマルティ・ルイツ氏（バルセロナ大学）と京都市立芸術大学の彫刻専攻を中心とする学生たちの手により、2015年に修復された。

今回は「桂フォーン」と「渡辺フォーン」に加え、京都市立芸術大学により製作された、新・音響彫刻「Sound go Round」が初のお目見え。ダンスとのコラボレーションを試みます。楽器として奏でる「音」、美術作品としての「彫刻」、アルティが誇るダンスカンパニーによる「身体」がアルティの空間の中でどのように融合されるか、どうぞご期待ください。

「クジラにのまれた男」

作曲 岡田加津子
振付 河邊こずえ、山口陽子

『ここはどこだ？オレはここで何をしているんだ？何の音だ？水？どこかで水が流れているのか？あれは何の音だ？生き物がいるのか？ああ、真っ暗闇だ…何も見えない…あ…あの声は…オレはあの声を知っている。ああ、あれは…あれは…確か…。』

Watanabe phoneとWater phoneが描き出す不思議な音の世界。でも、あなたもきっとそれを聞いたことがある。昔…母親の胎内で…。

「閉ざされたジャクリーヌ」

作曲 伊藤慶佑

自己はその人物自ら描くことは出来ないのだ、と思う。その葛藤は現代において、総てを“個人”という枠、そしてそれに伴う“個人でないもの”という境界が設けられることで無力化されるが、彼女の歌はその枠組みに対する、必死の異議申し立てであるように感じる。

「Sound go Round」

製作 京都市立芸術大学 チーム“sound go round”
監修 松井紫朗、岡田加津子、小山田徹

まわるまわる音がまわる。はしるはしる人がはしる。めぐるめぐる夢はめぐる。そしてついに、私たちの音響彫刻は歌を奏ではじめた。

○出演

<アルティ・ダンスカンパニー>
奥田明香 河邊こずえ 田中裕子 宮澤由紀子
三好美希子 森元穂 山口陽子 吉田ルリ子
<京都市立芸術大学>
岡田加津子 北村千絵 伊藤慶佑 黒川岳
谷口かな 松井駿 山田春佳 丹治樹

○企画・制作 京都府立府民ホール“アルティ” 京都市立芸術大学

○新・音響彫刻製作

<京都市立芸術大学 チーム“sound go round”>
(製作指導) 松井紫朗 岡田加津子
伊藤慶佑 川瀬鮎美 黒川岳 徐子倚 佐川睦美
中井友路 宗接花菜

● チケット取り扱い/お問い合わせは

京都府立府民ホール“アルティ” TEL 075-441-1414
〒602-0912 京都市上京区烏丸通中立売御門前 (9時~18時/第1・3月曜休館)

<http://www.alti.org>
HPから24時間チケット購入可能

アルティ・インターネット
チケットサービス

✉ hall@alti.org
HP <https://kyotoalthall.wixsite.com/aap2019>
(アルティ・アーティスト・プロジェクト ホームページ)

京都市営地下鉄烏丸線「今出川」駅6番出口より南へ徒歩5分
※お車の場合は京都御苑の駐車場(有料)をご利用ください。

